

## KUBIC に捧げた 2 年

第 7 期生 橋本 賢治

私の 2 年間の小野ゼミ生活を語る上で、欠かせないキーワード、それが「KUBIC」である。5 期までの先輩方にとっては聞きなれない単語だと思われるこの言葉であるが、今後連綿と受け継がれていく小野ゼミの歴史にとって、欠かすことのできないワードになっていくことは間違いないと思われるので、軽く概要を説明しておきたい。KUBIC とは、関西大学が主催するビジネスプランコンテストの名称である。高校の部、大学の部から成り、毎年 1,000 通以上の応募がある中で、上位 5 組がファイナリストとして関西大学にてプレゼンをする権利を得る。そして、その中で 1 組が、最優秀賞という栄冠と、賞金 20 万円を勝ち取ることができるのである。

私は、自分で言うのもなんだが、小野ゼミのミスター KUBIC を名乗っても、決して言いすぎではないのではないかと常日頃から考えている。というのも、私は、2 年連続で最優秀賞候補の上位 5 組、ファイナリストに選ばれたのである。これは、長い KUBIC の歴史の中においても、初めての快挙ではないかと実行委員の人も言っていた（しかも、ここだけの話ではあるが、2 年目はもう 1 つのプラン「雑誌に載っているようなトータルコーディネートをお手頃価格でそろえられるサービス “Just Your Fashion”」も 1 次審査を通過したという情報も後になって入手した）。

1 年目、この時点では、自分は仲間に恵まれていただけだったように思う。今は亡きなみ大先生が残していったプラン「ビジネスラウンジ」。しゅーちゃん、さやちゃん、ゆかりんに連れてってもらった関西、負けて悔しくなれない自分が、悔しかった。しかし、この舞台に立った経験は、自分の中の何かを変えた。絶対に無駄にしてはいけない、早くも、私には来年自分が再びここに来るビジョンを描き始めていた。この時を境に、私は寝ても覚めても KUBIC のことを考えるようになっていた。勝負は、このとき、まさに始まったばかりだった。

2 年目、私は、小野ゼミの中で最も、自分のアイデアに確かな生命を吹き込めるパートナー、ちばしょを得ていた。互いに試行錯誤し練り上げた 5 つのプラン、この時点で、私は半ば勝利を確信していた。それでも、ちばしょからファイナリストに選ばれた、という連絡が来た時には、強く拳を握り締めた。風は、確かに吹いている。先生の何気ない一言から生まれた珠玉のプラン「リポビタミン D グミ」。奇しくも、それは、自分の内定先の企業の製品を用いたプランだった。人は、それを奇跡と呼ぶのかもしれない。しかし、私にとって、すべてはどうしようもないくらいに必然だった。私は、持てる力のすべてを出し切り、最高の相棒とともに自分にできる最高の戦いに打って出た。このプランの創始者たる先生、ゼミ内でこのプランにダメ出しをしまくってくれたゼミ生たち、大正製薬の社員の方々、会場に応援に来てくれたなおひろ、まっつん、そして、1 年ぶりに再会した関西大学のみんな。すべてが、彼のグミを中心にして、1 つになった。そんな気がした。いや、確かに、そうになっていた。そして、確信した。すべては、ここに繋がっていたのだと。すべては、来るべき勝利への礎だったのだと。（つづきは、KUBIC 特集記事へ）